

KIBO NO NIJI

きぼうの虹

発行所
 北海道大学生協同組合
 札幌市北区北8条西7丁目
 教職員委員会編集
 電話 011-746-6218

主な記事紹介

二面	総合博物館の新たな挑戦
四面	台湾通信 第11回
七面	北大キャンパスの遺跡へ行く 第4回

北海道大学	山本 順司
総合博物館	菅 大志
北海道同窓会会員	菅 大志
北海道大学埋蔵文化財調査センター	高倉 純



附属図書館
 教職員写真同好会 伊藤仁浩

科学を伝える、そして、共に考える場を作ることに取り組んでいる私にとつて、この短い秋は最も忙しい時期の一つです。

10月には、リチウムイオン電池開発の功績で、吉野彰名誉フェロー(旭化成)のノーベル化学賞受賞が決定しました。毎年「日本人受賞の有無」にフォーカスされがちですが、社会における科学や技術の在り方を読み解く上でも、賞の動向を追うことは重要です。今回の受賞もスマートフォン普及に加え、環境負荷を低減する電気自動車や自動運転への転用可能性が追い風となったのだろうとされています。

近年では、生理学医学賞を受賞した大隅良典栄誉教授(東京工業大学)が、「役に立つこと」を偏重する社会に警鐘を鳴らしたこともニュースで大きく取り上げられました。

北大では、鈴木章名誉教授が化学賞を受賞しています。鈴木先生も「取り組む分野を好きになることが大切であり、好きだからこそ独創的な発想や研究が生まれてくる」と語っています。

ノーベル賞の発表から1ヶ月ほど前、そのパロディ版と言われるイグ・ノーベル賞の授賞式もありました。この賞は一人々を笑わせ、考えさせた業績や研究」に贈られます。今年も「(自身の子どもを含む)5歳児の1日あたりの唾液分泌量を推定した研究」で、渡部茂教授(明海大学)らが受賞しました。日本人が13年連続で受賞していることや、紙飛行機が飛び交うユニークな授賞式にも注目が集まり、知名度が上がっ

てきています。

イグ・ノーベル賞は、『風変わりな研究の年報』の編集長マーク・エイブラハムズ氏によって1991年に創設されました。ノーベル賞の6部門に対し、イグ・ノーベル賞は10部門。受賞研究に合わせてそれぞれ部門名が決められます。また、ノーベル賞の賞金は900万スウェーデン

ノーベル賞、イグ・ノーベル賞を生ま出す風土

高等教育推進機構
 オープンエデュケーションセンター
 科学技術コミュニケーション
 教育研究部門 (CoSTEP)
 特任助教

古澤 輝由

Opinion!



ン・クローナ(約1億円)ですが、こちらは10兆ジンバブエドル(1円未滿。現在は使用不可)。ちなみに、ハーバード大学で行われる授賞式への交通費も自腹……。

そんなイグ・ノーベル賞、北大には二人の受賞者がいます。粘菌に関する研究で認知科学賞と交通計画賞、二度の受賞を果たした中垣俊之教授。そして、生殖器の形状が雌雄逆転しているトリカヘチャタテム

シ)の研究で生物学賞を受賞した吉澤和徳准教授です。

昨年は、マーク氏を北大に招いて、両受賞者と共にトークイベントを行いました。創設当初は「トンドモ研究の賞」と認識され、敬遠されることも多かったそうです。実際、社会風刺として、トンドモ研究が選出されたこともありましたが、しかし近年では、真に「笑わせ、考えさせる」研究のみが選ばれているように思います。その結果、イグ・ノーベル賞の授賞式には多くのノーベル賞受賞者が参列し、本家との距離も近くなって来ています。ノーベル、イグ・ノーベル両方を受賞した研究者もいます。

吉澤先生は、受賞直後のインタビューで「結果としての発見が面白かっただけで、特別な研究方法を行なっているわけではない。この分野の誰もがやっている普通のこと」と語っています。私は、ここに両賞の本質があるように感じます。科学の営みとしての真摯な積み重ねが、時に「独創的」と語られ、時に「風変わり」と語られる。

ノーベル賞とイグ・ノーベル賞、両方の受賞者を抱える大学は、ほんの一握りしかありません。「独創的な研究を育める風土がこの北海道大学にはあるのだからね」そんなマーク氏の一言が、心に残っています。

(写真はマーク氏の帽子をかぶりご機嫌の筆者。マーク氏のお父様は、W.S.クラークが学長を務めた現マサチューセッツ大学アマースト校の出身とのこと)

総合博物館の新たな挑戦

心を照らす置き家具照明プロジェクト

北海道大学総合博物館 山本 順司

本学のメインストリート沿い、総合博物館の前にたたずむ木組みから漏れるほのかな灯火が気になっていらっしやる方は少なくないと思います(写真1)。



写真1

リニューアル後に来館者数倍増

2016年の夏、2年間に及ぶ耐震改修工事を経て、総合博物館は2つのコンセプト

を掲げて大規模展示リニューアルを果たしました。コンセプトの一つは、北海道大学の魅力をすべてお見せすること、もう一つは、より市民に愛される博物館になることです。その結果、2018年度の年間来館者数はリニューアル前の2倍、22万人に達し、今年度はさらに多くの来館者を迎えられそうです。

看板のない博物館

しかし、観光客と思われる家族連れでも博物館の存在に気づかずに博物館前を通り過ぎる様子が頻繁に見られ、時には博物館の目の前で博物館の場所を訊ねられることもあります。この原因は明らかで、総合博物館に表札はあっても看板がないからです。総合博物館は本学の広報機能を担う組織でもあるため、本学の魅力をより多く発信するには、まずは総合博物館に気づいてもらう仕掛けを作らねばなりません。

当然ながら看板の設置については展示リニューアルの最中から何度も議論を重ねてきました。リニューアル事業に大きな出費が続く、最後の最後で資金が尽きてしまったため、結局看板を作ることができないままリニューアルオープンの日を迎えることになりました。

看板の設置を目指して

この、看板のない博物館の状態は、来館を妨げる心理的なバリアになっている可能性があるため、一刻も早く事態を打開する方策を打ち出し、実施していく必要があります。

そのため、リニューアルオープン直後からリニューアルに関わった博物館スタッフを中心にワーキンググループを結成し、看板の設置を再度目指すことにしました。しかし、やはりここでも問題になったのは資金問題でした。その頃の総合博物館は、耐震改修工事に伴う大規模展示リニューアルで背負った大赤字を抱えていましたので、新たな出費を伴う事業を実施することは難しく、提案を口にするにすら憚られるような状態でした。そこで、学内のあるチームに助力をお願いすることにしました。そのチームとは工学研究院建築デザイン学研究

室と農学研究院木材工学研究室、そして北方生物圏フィールド科学センター中川研究林の方々です。彼らは総合博物館のバリアフリー玄関とその介添者用階段を兼ねたウッドデッキを製作した際のコアメンバーであり、長く過酷な展示リニューアル作業と一緒に歩んでくれた大恩人達です。またご負担をかけることに心苦しさを感じながらも声がけしたところ、本学のブランディング向上に資する意義に賛同いただき、再度お力添えいただけることになりました。

誘導サインの立案と資金問題

このチームが目指した看板仕様を一言で表現すると、誘導サインです。総合博物館の存在をただ単に示すだけでなく、開かれた大学、開かれた博物館を表徴する意匠を希求したため、気軽に内製したり外注したりするわけにはいきません。誌面の都合で詳しく紹介できないことが残念ですが、設計を担当したのは、意匠建築に関する高度な技能や知識を有するだけでなく、総合博物館の存在意義にも理解が深い建築デザイン学研究室の学生達です(写真2)。

木材工学研究室からは屋外で長期間の使用に耐える木材に関する様々な助言を受け、

いじわるじいさん

9月下旬、台風接近中で雨、気温13度の札幌を発った。着いた高知は台風一過の快晴で32度だが、四十十川は増水、川縁まで茶色の水に浸かっていて道端の彼岸花に目を奪われながら、高知県立牧野植物園に行く。風雨の跡を感じさせない園内で、初めて見たツブラジイの板根や、白や紫の小花をつけた草花に心惹かれた。帰札後、北大植物園の様子を見に行く。ヌマスギの気根はいつものように沼地からゴツイ顔を出していた。灌木園では枯れた下草に落葉が重なり、マユミやセッコウボクが赤や白の実をつけていた。ピンと立つオオウバユリも茶色くなって種を飛ばすばかり。風は冷たく、みな冬支度に入っていた。牧野園は楽しく、行った甲斐があったが、北大植物園の良さも再認識。春夏に見てきた花木の晩秋の姿、樹齢100年越えのハルニレ林：北国の自然も美しくかった。この変わらぬ景色の前で思ったのは、各地で吹き荒れていた暴風雨のこと。10月は台風の報道が続いた。未曾有といわれた台風が各地を襲い、家、人もろとも山が崩れ、川が氾濫。景色が崩れるというのを、衝撃と共に思い知らされた。被災地の人々の慟哭を聞く。(今日子)

中川研究林からは木材の提供にお骨折りました。さらに、安全な製品に仕上げるため、産学・地域協働推進機構からの助力を得て、オーダーメイドの家具を多く製作している株式会社札幌幸舎に参画してもらったことができた。これで製作に必要な態勢は万全となりましたが、この時点でも依然として資金繰り問題は解消しておらず、様々な資金調達チャンネルを検討した結果、最終的にクラウドファンディングに挑戦することにしました。



写真2

クラウドファンディングに挑戦

総合博物館は2017年にも展示室新設を目指した学術系クラウドファンディングに挑戦し、学内外から多くの支援をいただいた経験がありま

したが、今回は誘導サインという商品の製作であり、支援を訴求する対象や方法が異なります。そのため、プロジェクト支援を得意とするしごとつくる株式会社への参画を得て、商品開発系クラウドファンディングであるマクアケをプラットフォームフォームに広く支援を募ることにしました。

そのクラウドファンディングは「北海道大学の博物館をもっと明るく！」北大生がデザインする照明で市民の憩いの空間を〜のタイトルで2018年7月から11月まで実施しました。目標としていた300万円には届きませんでした。94名から1,637,500円のご支援をいただくことができ、木材の購入や製材、運搬、加工、塗装、組み上げ、照明取り付けへと順調に歩を進め、2018年末、無事に試作品の開発にこぎ着けることができました。

置き家具照明の制作

その後の半年間は耐寒耐雪性能を確認するため屋外で冬季耐久試験を行い、そして2019年4月、テストフィールドの雪の中から掘り起こした試作品を博物館前庭に移設しました。チームの想いが結実した瞬間でした



写真3

が、1基だけではあまりにも頼りなげな灯に映りましたので、2019年6月、開発に関わったメンバーらの出資によって前庭にもう1基、さらに博物館内の展示室にも1基増設しました(写真3)。

これらの誘導サインは木材を螺旋状に組み上げ、その隙間から漏れる灯火によって真冬の日暮れ時でもお客様を温かく迎え、また優しく送り出すことを狙っています。また、写真1で螺旋状照明の右下に小さく写っている箱形照明はベンチとしても使えるようになっていきます。メインストリート沿いには休憩する場所が少ないため、歩行者に休んでいただけるとのデザインされました。総合博物館は誰でも気軽に利用できるユニバーサルミュージアムになることを目指しています。これらの誘導サインはそのシンボ

ルとして人々の足下や心を照らしてくれると思います。最終目標としては総合博物館の前庭に螺旋状誘導サインを18基配置し、皆様を冬でも温かくお迎えできる空間をつくり出していきたいと考えています(写真4)。



写真4

プロジェクトへのご支援を

このように、置き家具照明プロジェクトによって本学をますます明るく温かく楽しくしていきたいと思っておりますので、当プロジェクトについて周りの方々にお知らせいただきましたら幸いです。ご支援いただいた皆様のお名前は、当プロジェクトにお力添えいただいたメンバースとして新たに設置する誘導灯や展示室の芳名パネルに刻ませていただきます(写真5)。

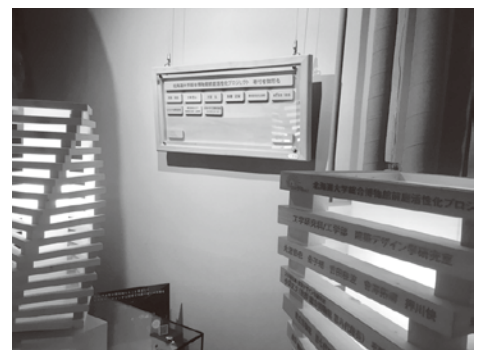


写真5

資料はこちらからご覧いただけます。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/outline/building/lightup/>



- 写真1…総合博物館前庭の照明
- 写真2…誘導サインのデザインは工学研究建築デザイン学研究室にて生み出された。後に意匠権も取得。
- 写真3…置き家具照明プロジェクト関係者らの出資によって増設された2基の誘導サイン。
- 写真4…置き家具照明プロジェクトが目指す総合博物館の前庭風景。この姿の実現を希求してクラウドファンディングに挑戦した。
- 写真5…総合博物館内の芳名パネル。等身大マンモスの横に実物大およびミニチュア版誘導サインとともに掲示

品台湾通信

「北大珈琲」と「北大紅茶」

北大台湾同窓会会員・北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志



北大紅茶、その前に

北大卒業生によって埔里（プーリー）とその隣村の魚池（ユーツー）は紅茶栽培の最適地に選ばれ、1936年に台湾総督府の紅茶試験所ができたということは最初にお話ししました。この試験所の三代目所長が北大卒業生の新井耕吉郎で「台湾紅茶の父」と呼ばれ、近年注目を集めています。そこで私は初代と二代目の所長を調べたところ、初代が谷村愛之助博士、二代目が古市誠博士でお二人ともに、北大卒業生で私は仰天しました。

埔里に住む私にとって北大の大先輩達がここで珈琲だけでなく紅茶も作っていたことに感動すると同時に、「歴代所長全員が北大卒業生なのは単なる偶然だろうか？」と当時の私は不思議に思い、それ以降、日本統治時代の台湾の北大卒業生について本格的に調べることにしたのです。

北大閩が台湾に

「農業は台湾、工業は日本」の台湾総督府の基本政策によって農学を修めた人材が台湾へ渡って来ました。当初、これにあたる人材を輩出していたのは、札幌農学校（北大）と駒場農学校（東大）でした。ところが、殖産局長となった新渡戸稲造農学博士は「台湾に赴任するや専ら札幌出身者のみを用ゐて駒場農科の系統を引いた者は呼ばない呼ばないのみならず寧ろ大に排斥した（注1）」、さらに台湾日日新報によれば「台北の農業側は札幌出身と駒場出身の一盛一衰を繰返して居る云ふまでもなく札幌は今の東北大学元の札幌農学校で駒場は東京の農科大学昔の駒場農学校 嘗て新渡戸博士の殖産局長となる以前は駒場の独占といふ有様であつたが、博士の渡台以来形成一変全く札幌出身者の独占となつたのである（注2）」とありました。

このように新渡戸博士が殖産局長となった1901年以降、台湾総督府の農林業を管轄する殖産局の各種試験所、さらに農林学校である農業高校、高等農林、台北帝国大学理農学部において北大閩が形成されていったのです。



1933年谷村愛之助博士ゆかりの埔里の紅茶園。畝仕立てではなく一株ずつ植えられている。

台湾が世界一の親日国なのは北大のおかげ？

台湾語の諺に「呷水果、拜樹頭」があります。果物を食べ、樹を拜むという意から、受けた恩を忘れてはいけないという戒めの諺です。日本統治時代を体験した台湾人とその子孫は、日本統治に関して肯定的に捉えている人が多く、戦後74年経った今でも、現在の台湾があるのは日本のおかげだと感謝しているのです。現在日本と台湾には国交がないにも関わらず、台湾が世界一の親日国なのは、先述した「農業は台湾、工業は日本」の台湾総督府の基本政策が奏功したことがその大きな理由の一つです。

この連載中で述べてきたように、台湾の重要農作物は砂糖と米でしたが、新渡戸稲造博士と磯永吉博士がそれぞれ中心となって研究に取り組んだ結果、いずれも成功を収め、新渡戸稲造は「台湾砂糖の父」、磯永吉は「台湾米の父」と呼ばれ、今日でも台湾の人々から感謝されています。また、農業教育、農業人材の育成を図るため、上記の農林学校が開校しましたが、これらの校長や教員の多くを北大卒業生が担当しました。このように、北大閩によって300人を越える北大卒業生が台湾の農林分野で尽力したおかげで台湾は大変豊かになったのです。

しかしながら、こうした活躍をしたのが北大卒業生達であるということは台湾では全く知られていません。北大の皆様、非常に残念だと思いませんか？

注1 千朶木仙史編『学界文壇時代之新人』天地堂、1908年、「農学博士法学博士新渡戸稲造氏」

注2 『台湾日日新報』1911年11月25日号「無弦琴」

「Peace Now! Nagasaki2019」に参加して

Peace Now! Nagasakiとは、大学生協が企画しているセミナーである。全国各地の学生が原爆を投下された長崎の地に集まり、フィールドワークや戦争体験者の講話を通して、戦争や平和について深く考えることを目的に開催されている。

セミナー中に平和記念式典に参加する時間があり、私は式典に初めて参加した。当日、会場は蒸し暑い酷暑であったのに加え、平和を心から祈る人々の熱で、異様な熱気に包まれていた。黙祷の時間が終わると、日本人だけでなく、海外の人も同様に涙を流しているのが印象的であった。



この体験を通して、原爆投下という歴史は、世界規模で語り継がなければならない歴史であると痛感した一方で、被爆者の高齢化による語り部の不足、戦争遺産の維持の困難さといった問題があり、語り継がれることが困難な時代に突入している。

戦争を経験していない私たちが、その歴史を語り継ぐことは難しい。原爆資料館を訪れ、被爆した資料を見ることによって戦争の悲しさや痛ましさを「痛感」することができる一方で、本当の「痛み」はわからない。

では、私たちはどうしたらよいのか。考え続けたのちの結論は、戦争の歴史をこれまで必死で遺してきた、その意志を継ぐ存在であるべきだということである。

私たちは戦争の歴史を未来のために人生をかけてまで語り続けている被爆者の方にお会いできた。加えて、戦争の歴史を後世に伝えようと活動する被爆二世の方の講話も聴けた。

そんな想いを聞いた率直な感想を周囲に伝えていくことは容易にできる。「痛み」の歴史は伝えられないけれど、「痛感した」想いを多くの人に伝えることができる。

懸念するのは、私たちは戦争を身近に捉えづらい時代・場所で生きており、本セミナーのような機会がないと「痛感」することさえできない人も一定数いるのではないかということである。

そのような場合は、身近な歴史に、身近な人の想いにちょっと目を向けてみるのもよいのかもしれない。例えば、北海道大学における歴史について、少し考える時間を設けてみてもよいと思う。

私たちが日々生きるなかで見過ごしている歴史は山ほどある。そんな歴史に目を向けてみると、何か心が動かされる瞬間があるかもしれない。



フォトコンテスト2019応募作品展

6月に行いました北大生協機関紙「きぼうの虹」企画のフォトコンテストも今年で7回目となりました。多くの作品をご応募いただきましたが、その中から52作品を展示する「応募作品展」を開催しました。

11月5日（火）から11月30日（土）の約1ヶ月間、北大生協会館店の階段壁に応募写真を展示しました。

階段という場所柄、写真展を目指して見に来ていただいた方他、通りすがりの方など様々な方にご鑑賞いただきました。

また、10月21日（月）から11月24日（日）の間、北大正門横のエルムの森ショップで入賞作品6作品の展示も行いました。こちらでは主に観光客や一般市民の方々に見ていただきました。同期間には、北大ホームページ英文版にもこちらの入賞作品6作品が掲載されました。

応募作品の中から選ばれた6作品が掲載されている「北海道大学2020CALENDER」（700円税込み）を発売中です。年末帰省時のお土産等にお買い求めいただけると幸いです。

今回の写真展に関し、ご協力いただきました北大インフォメーションセンターの皆様、フォトコンテストに応募していただいた方々、ご来場いただいた方々、ありがとうございました。



生協会館店展示の様子



エルムの森ショップ展示の様子



「2020北海道大学卓上カレンダー」

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



ヒトは集団になると、一對一の時とは異なる、さまざまな現象が起こります。集団自体が一つの命を持った有機体のようなものであり、その誕生から死(消滅)に至る一生を送るのだ、とする見方があります。家族や職場のよきな集団にも、若い時期や最盛期、変化の多い時期と安定期、円熟と衰退期、そして時には変革期といったものがあると考えると、よく理解できる部分があります。そして、そういった集団の中で、一人一人は様々な役割を取ります。率先して皆を引っ張ってゆく人(リーダーです)と、それに従う人(フォロワーと言います)は良く知られている役割区分でしょう。みんながリーダーになりたがってフォロワーがないと集団がめちゃくちゃになってしまふ(船頭多くして船山に上る)です。よきに、それぞれの役割には固有の意味があると考えられます。

そんな役割の中の一つに、調整役というのがあります。異なった意見の人の間を取り持つといったことですね。たとえば、これは結構激しい例ですが：ウチのお母さんとお姉ちゃんはソリが合わなくて、いつも衝突して大ゲンカしている、見かねた私が、いい加減にしないさい!と間に入って二人をなだめるやらさとすやら、ああもう疲れるっ!というような場合ですね。そう、この役割は疲れるんですよ。精神疾患を抱える方々のグループ・カウンセリングの中で、どういう役割を取るかによります。日米の比較研究です。よく話すという人は、米国では良くなるのだそうです。では、日本では? 話した内容がグループの他の人たちに受け容れられると良くなる、受け容れられないと悪くなる、でした。ちよつと考えさせられます。いつも黙って聞き役に回る人は? 実際にグループ・カウンセリングをしてみると、きちんと出席して、でもほとんど話さない、という方がおられるのです。こういう人は



良くなる、という結果でした。では調整役はと言うと、日米どちらの場合も、悪化するのだそうです。精神疾患を抱えた方々はその敏感さゆえに、一般的な傾向を拡大して見せてくれると考えて良いでしょうか、調整役には大きな負担がかかるということなのです。

そして調整役は、その苦勞を人から気づかれにくい場合が少なくない、と思います。人知れずの苦勞は、こころの健康によろしくありません。誰かから認められること、苦勞を汲んでもらえることが大切です。学校の校長経験者の方々が先生でしようか。中学校の校長経験者の方々が教わったのですが、教頭先生は非常に負担が大きく、四、五年のうちに昇格しないとつぶれてしまうのだそうです。部活で言うと、副部长でしようか。どちらもサブ・リーダーであり、リーダーとフォロワーとの板挟みになる立場です。板挟みですから、味方が少なく、孤独な場合は多いでしよう。

家庭の中での調整役は、子どもが担っている場合が結構多いと言います。両親を困らせ、手間をかけさせることで注意を引き、夫婦仲が決定的に悪くなることを防いでいたり、といったわかりづらい微妙な場合も含めて、「子はかすがい」の負の側面でしようか。もちろん意識してやっているのではないでしようけれど。そうやって育った子どもが、長じて友達仲間や職場の集団の中でどのような役割をとるかは固定しやすく、知らないうちに、色々な集団の場と同じようなことをやっていたりします。お母さんとお姉ちゃんが大ゲンカしていても放っておけるようになることも、心の健康には大切かも知れません。

良くなる、という結果でした。では調整役はと言うと、日米どちらの場合も、悪化するのだそうです。精神疾患を抱えた方々はその敏感さゆえに、一般的な傾向を拡大して見せてくれると考えて良いでしょうか、調整役には大きな負担がかかるということなのです。

そして調整役は、その苦勞を人から気づかれにくい場合が少なくない、と思います。人知れずの苦勞は、こころの健康によろしくありません。誰かから認められること、苦勞を汲んでもらえることが大切です。学校の校長経験者の方々が先生でしようか。中学校の校長経験者の方々が教わったのですが、教頭先生は非常に負担が大きく、四、五年のうちに昇格しないとつぶれてしまうのだそうです。部活で言うと、副部长でしようか。どちらもサブ・リーダーであり、リーダーとフォロワーとの板挟みになる立場です。板挟みですから、味方が少なく、孤独な場合は多いでしよう。

ほけんのお話

最近は大きな災害が頻発しています。大災害になった台風19号のときのテレビから発せられた「自分の命を守る行動を取ってください!」が耳から離れない方も多いのではないでしようか。この直後に開催された新発寒地区の町内会の防災講座では、札幌市危機管理対策室の方が次のことを話されていました。

- ① 新発寒地区は地震と水害を想定
- ② 札幌市は、発災後3日間の食品や日用品、簡易トイレなどの備蓄を進めている
- ③ 家庭でも最低3日間分(できれば7日間)の備蓄をお願いしたい
- ④ 最新版ハザードマップを家庭で必ず読んで確認してほしい
- ⑤ 特に警戒すべき災害である厳冬期に起こる直下型地震では多くの方が凍死する可能性が非常に高い

みなさんの地域はいかがでしようか。被災した場合に備えて、その後の生活再建のことを考えましよう。被災したとき、貯蓄残高が少なく生活再建資金が不足する可能性のある方は要注意です。被災時の国や自治体の生活支援制度だけでは不十分で、火災保険や地震保険の加入とその補償を確かめることが重要です。家を購入したときに加入した火災保険が切れて無保険状態になっていた、補償が十分でなかったり、地震保険が未加入だったりすることもあります。地震保険は、保険金の返道を限定していませんので、地震保険金を住宅ローンの返済に充てることができるため、住宅ローンの負担を軽減することができます。さらに建物の修繕などはもちろん、家族の生活再建費用にも保険金を使えます。

火災保険や地震保険に加入している方は保険証券を持って、加入していない方はすぐ損害保険代理店に問い合わせましよう。



北大キャンパスの遺跡人行こう

第4回 北大式土器

北海道大学埋蔵文化財調査センター 高倉 純



ポブラ並木東地区地点出土の北大式土器

北大式土器とは？

土器の形や文様は、時期や地域に応じて違いを示します。考古学の研究では、そうした

特色をもとにして、土器型式と呼ばれるまとまりが設定されてきました。「北大式土器」と名づけられた土器型式は、

続縄文期のうち、紀元5世紀から7世紀頃までの間、北海道から東北地方北部にかけて分布していた土器のことを指します。この北大式土器では、深鉢形の土器の外面の上部に、竹管状の工具によって連続的な刺突の痕が残されていることが頻繁に認められます。大学の名称が土器型式名に用いられているのはとても珍

しいことですが、北海道大学構内の遺跡で発見されたものを示準資料として土器型式が設定されたために、このような名称がつけられました。北大式土器を設定し、学界には



写真1：ポブラ並木東地区地点での発掘調査の様子

じめて紹介したのは、北海道帝国大学農学部で昆虫学を学んだ河野広道博士です。河野博士は、昆虫学にとどまらず、北海道の考古学研究にも大きな足跡を残した研究者です。

ポブラ並木東地区地点

北海道大学埋蔵文化財調査センターの前身組織である埋蔵文化財調査室は、昭和59年度に、理学部3号館の西側、現在は草地となっている箇所

で発掘調査を実施しました。ポブラ並木東地区地点です(写真1)。本地点からは、北大式土器が作られていた時期に残された、7基の墓が発見されたことで大きな注目を集めました。発見された北大式土器の特徴から、5世紀頃に残された遺跡であると推定されています。

本地点で発見された墓は、1〜1.5m程の範囲で地面から穴が掘り下げられて構築されたもので、土坑墓(どこうぼ)と呼ばれるものです(写真2)。墓坑内からは、ガラス玉や変成岩を素材とした平玉など、埋葬に伴って残された多数の副葬品が発見されてきま

した(写真3)。埋葬された遺体は保存されていなかったものの、北大式の時期の人々がどのような墓を残していたのか、が本地点の発掘調査を通して明らかになったのです。

副葬品の由来

ポブラ並木東地区地点から発見された北大式土器の時期の玉類は、どのような由来をたどって副葬品となり、遺跡に残されるにいたったのでしょうか。

本地点の1号墓と名づけられた土坑からは、濃紺色のガラス玉が3点出土しています。成分分析の結果では、ソーダ石灰ガラス(植物灰ガラス)



写真2：ポブラ並木東地区地点で発掘された土坑

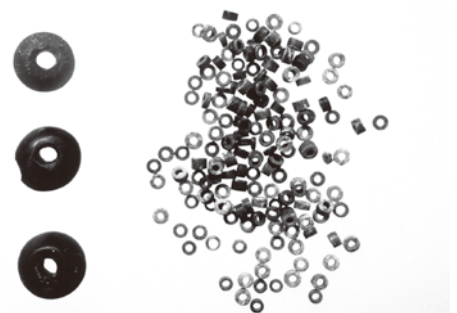


写真3：ポブラ並木東地区地点から発見された玉類(左側3点のガラス玉の径は10mm程度)

である可能性が高いことが明らかになっていきます。北海道では現在までのところ、続縄文期にガラス玉を製作・加工していた工房は見つかっていません。おそらく本州の古墳文化圏に属していた人々との交易を介して、こうしたガラス玉を入手していたのではな

いかと考えられています。遺跡から発見されている様々な資料の材質を分析し、製作地を突き止めることができれば、交易の具体像を知ることがも可能となってきます。ガラス玉は、北大式土器が残された頃の対外的ネットワークを示唆する貴重な物証といえるでしょう。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■ポッキー人気投票企画を実施

学生委員会では、11月5日～11月18日の日程で「ポッキー最強味決定戦」と題し、秋の店舗活動を行いました。11月5日～11月8日の間に6種類のポッキーの味の中でどの味が一番好きかを組合員に投票してもらい、その中で一番に選ばれた商品を11月11日のポッキーの日に購入すると、11ポイントを電子マネーに付与するという企画でした。投票期間中は投票用紙の前に学生委員が立って投票を促すことで、企画を行なっていた購買がとても賑わっている様子が見られ、大変盛り上がりを見せた企画になりました。

■学生委員会公式HP

<http://hokudai.web.fc2.com/>

■学生委員会公式Twitter

@HU_COOP_GL_CS

学生委員会の活動や学生委員の日頃の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをどうぞご覧ください。

■学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。これからも学生委員会をよろしくお願いします!!

院生委員会

■総代会議を開催しました。

10月24日(木)に院生総代会議を中央食堂2Fで開催しました。院生さん6名が参加しました。院生さんの生活実態や、生協の利用状況、生協への要望や改善案等を出し合いました。普段、なかなか院生さんと意見交換をする場を設けることが出来ませんでしたので、貴重な機会となりました。

■ほんでないかい2019作成中

院生向け書評誌「ほんでないかい2019」の作成を開始しました。例年北大関係者、OB、OGの方に特別インタビューを行っていますが、今年は総合博物館長 小澤先生にお願いしました。11月20日(水)まで書評を募集しました。採用者には800円分の生協電子マネーを進呈します。

■いんでないかい2020作成開始

新入院生向け冊子「いんでないかい2020」の作成を開始しました。今回は一部内容を見直しより新入院生の役に立つ、また生協として伝えたいことを盛り込んだ内容になる予定です。完成は2月下旬を予定しております。

留学生委員会

■ウエルカムパーティー開催

8月から準備を進めてきました秋の新入留学生歓迎企画のパーティーは、10月11日・中央食堂2階で100名の新入留学生の参加で、生協の話しやゲームやBINGO等で大いに盛り上がりながら無事終了しました。



■中古自転車譲渡会も無事終了

10月17日には先着85名を対象に中古自転車譲渡説明会を開催し、20日に札幌市から提供を受けた放置自転車20台を当日の留学生83名が受け取りました。当日は天気も良く、早い子は開始時間の1時間前から並んでいました。



教職員委員会

■教職員総代会議・学内7ヶ所

8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。10月は15～17日、11月は12～14日に開催しました。

■教職員委員会…毎月1回、18時

～19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。10月は17日、11月は14日開催しました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

今号は「総合博物館の新たな挑戦」と題した特別企画記事を総合博物館の山本順司先生に寄稿いただきました。以前、「総合博物館へ行こう」をシリーズ連載していましたが、これからも何かあれば単発で紹介いただきたいと思います。

【編集後記】

きぼうの虹385号をお届けします。いよいよ冬到来です。寒さへの備えはもちろんです。路面には十分気をつけてください。今号の「こころの健康を考えると」とても納得です。ホントに調整役は疲れますよね。本誌の調整役の皆さん、いつも苦勞をかけています。申し訳ありません。